



ヤングケアラーとは～和歌山でも支援の取り組みが始まる

ここ最近「ヤングケアラー」という言葉をお聞きになったことがある方が多いのではないのでしょうか。ヤングケアラーとは一般的に「本来大人が担うと想定されている家事や家族の世話を日常的に行っている子ども」を指し、その存在が地域社会で知られるようになってきました。和歌山県でも支援が始まっています。

「ヤングケアラー」が行っている家事・世話の一例

- ・家事や幼いきょうだいの世話をしている
- ・高齢の家族がいて、見守りや介護をしている
- ・障害や病気のある家族がいて、介助や看病をしている
- ・家計を支えるため、放課後は働いている
- ・通訳等により、家族の意思疎通を支えている
- …など（和歌山県福祉保健総務課ウェブサイトより）。ただし、法的な定義があるわけではなく、上記以外の家事や家族の世話をしているケースもあると考えられます。

生活に大きな支障が出るケースも

関西の大都市に暮らすミナコさん（仮名）。母親はミナコさんが幼い時に病気で亡くなり、父親と兄との3人暮らし。兄には障害があるため、家庭でのケアが欠かせません。加えて父親が病気のため入院・手術を行うことに。幸い大事には至りませんでした。退院後は自宅で療養することになりました。

その頃、ミナコさんは大学を卒業し企業に就職しましたが、父親が当面の間、働くことができないため、一人で家計を支えざるを得ない状況に陥ってしまいました。

朝早く起きて、家族の分の朝食と昼食をつくり出勤。職場から帰宅してから家事をこなす。父親と兄の介助をする毎日。日によってはヘルパーの手助けを得ることはできるものの、特に夜間はミナコさんが一人で対応せざるを得ないため、睡眠時間も十分に取れない日々が続きました。

それまで他者を介助する経験がなかったミナコさんは、何かヒントを得ようと行政の広報誌を頼りに病気の家族会にも参加してみましたが、シニア世代がほとんど参加者のなか、20代のミナコさんはとても若く、最初は歓迎されませんでした。しかし、ほとんどの参加者は配偶者や年離れた親のケアをしているのに対して、ミナコさんは参加者のみなさんよりも若いぐらいの父親のケアをしているため、話がなかなかみ合わず、得られることは少なかったといえます。

支援の手は

社会的には一昨年から「ヤングケアラー」の存在が注目されるようになり、ヤングケアラーが増加した要因として、核家族や共働き世帯、それにひとり親世帯の増加、少子高齢化の進展などが指摘されています。

一昨年に国による調査が、昨年には和歌山県による調査がそれぞれ行われており、回答者の概ね4～5%程度が家族の世話をしている状態が浮き彫りになりました。幼いきょうだいの世話をしているという回答が多い一方、両親や祖父母の世話をしている頻度が高い学生は、ストレスや身体的な不調を訴える割合が比較的高く、長時間にわたるケアが生活に影響を及ぼしていることがうかがえる、としています。

これらの結果を受け和歌山県では、家族の世話など生活への困りごとがある場合は、学校や市町村の福祉担当部に相談するよう呼びかけを行っています。また、学生を支援する立場にいる教職員等を対象としたパンフレットを作成・公表しています。

今後は地域社会としてもヤングケアラーの存在を広く共有し、必要に応じて必要な支援につなげられるよう、取り組みを進める必要があると考えられます。（志場久起）

低年齢化が進む「ケアラー」

このミナコさんのケースは実は7～8年前の話。「ヤングケアラー」という言葉自体もほとんど知られていなかった頃のことです。しかし、このような境遇にいたるわかもは兼ねてから地域に存在していたのです。

家族の世話や手伝いをするこ自体は悪いことではありませんが、家族のケアが過大になり、学業や生活に影響が及ぶ可能性があるのが昨今話題になっている「ヤングケアラー」。なかでも、ミナコさんよりもさらに若い、主に10代の青少年を指します。学校に通学しながら病気や障害のある家族の支援を行っているケースも少なくなく、収入も十分でないなかで家族のケアをするのは極めて困難であることは想像に難くありません。

ヤングケアラー実態調査より

■家族の世話をこなしている学生の割合

	国調査	県調査
中学2年生	5.7%	4.7%
全日制高校2年生	4.1%	3.9%
定時制高校2年生相当	8.5%	13.8%

国調査…令和2年度子ども・子育て支援推進調査研究事業「ヤングケアラーの実態に関する調査研究報告書」
https://www.murc.jp/wp-content/uploads/2021/04/koukai_210412_7.pdf
県調査…和歌山県中高校生の実態に関するアンケート調査（ヤングケアラー実態調査）結果
https://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/040100/young-career.html

■世話を必要としている家族（複数回答）

	父	母	祖父母	きょうだい	その他			
国調査	23.5%	32.8%	14.7%	21.2%	61.8%	45.9%	3.8%	5.5%
県調査	29.6%	40.0%	22.5%	27.9%	44.3%	38.9%	5.5%	4.9%
国調査	35.5%	64.7%	16.1%	11.8%	41.9%	41.2%	12.9%	5.9%

■生活への影響（複数回答・県調査より）

全体…世話をしている学生全体に占める割合、高頻度…家族のケアを週3回以上かつ平日2時間以上している学生に占める割合

特にな	学校を休みがち	遅刻・早退が多い	友人と遊ぶことができない	体のだるさを感じている	睡眠不足である	自分の自由な時間がない								
全体	68.8%	50.9%	1.3%	3.6%	1.6%	3.6%	3.7%	9.1%	7.7%	15.5%	7.0%	13.6%	5.4%	13.6%

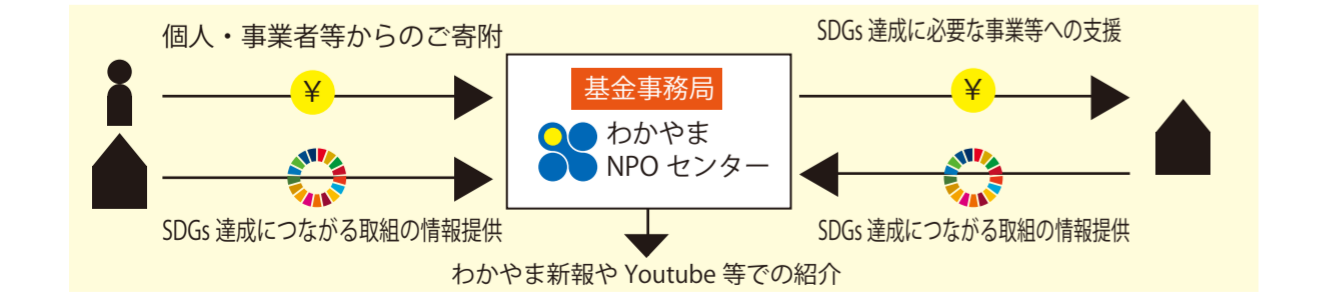
家庭で十分勉強できない 授業に集中できない 部活や習い事ができない ストレスを感じている 孤独を感じることもある 進路を考える余裕がない その他

全体	5.9%	13.6%	2.2%	2.7%	1.1%	5.5%	14.5%	22.7%	4.0%	7.3%	0.8%	1.8%	0.8%	0.0%
----	------	-------	------	------	------	------	-------	-------	------	------	------	------	------	------

わかやま SDGs パートナーシップ 基金へのご寄附のお願い

みんなの力で SDGs 実現を！

国連で採択された「SDGs（持続可能な開発目標）」の達成には、世界のあらゆる国、あらゆる主体が参画することが求められています。わかやま NPO センターでは、ここ和歌山の地で、SDGs 達成に向けた取り組みを進める産・官・学・民の連携を進めるための基金「わかやま SDGs パートナーシップ基金」を運営しています。現在、みなさまからのご寄附を募っております。



ここがポイント！

- ▶ 地域の諸課題は時とともに移り変わっていきます。SDGs の 17 の目標のベースに年度ごとにテーマを設定し、該当する活動を支援します。
- ▶ 本基金による支援先となる NPO 等に限らず、本基金に携わるみなさまによる SDGs 達成に向けた活動を、「わかつく」（わかやま新報隔週金曜連載）や YouTube などの媒体で発信します。

支援について

- ▶ NPO・ボランティア団体から支援のご要望を募り、わかやま NPO センターが設置する審査委員会を経て、優先度合いが高いと判断された団体に対して支援を実施します。
- ▶ 支援は、個人・事業所等からのご寄附を原資にして、資金支援（助成等）、非資金支援（講師や専門家の派遣、助言、情報発信等）の2通りを実施します。

ご寄附の方法

- ▶ 1口3,000円から受け付けます。現金によるお支払いのほか、銀行振込（振込手数料はご負担ください）、クレジットカード決済（振込手数料はかかりません）がご利用いただけます。
- ▶ 次年度以降も継続してご支援いただける場合は銀行口座からの自動引落、クレジットカードからの継続決済のご利用が可能です。詳しくはお問い合わせください。
- ▶ 本基金へのご寄附は寄附金税制の対象となります。個人の場合は確定申告により、所得税の還付が受けられます。法人の場合は寄附金等の損金算入限度額が拡大されます。

くわしくは専用ウェブサイトをご覧ください。
クレジットカード決済によるご寄附申し込みフォームもございます。
<http://www.wnc.jp/sdgs/>

【運営】

認定特定非営利活動法人わかやま NPO センター
〒640-8331 和歌山市美園町 5-6-12
TEL 073-424-2223 FAX 073-423-8355 E-mail info@wnc.jp
【事務所不在時、電話は和歌山県 NPO サポートセンターに転送されます】

こちらからも専用サイトにアクセスできます

